

注9…国や地方公共団体が整備した施設の運営を民間事業者に委託すること
注10…造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林

用年数が過ぎたもの等については、最新の医療機器に更新し、最良の医療の提供に努めたい。また、公設民営による市民病院の経営は現在順調であるが、設置者である大村市としては、安心安全な医療環境や福祉環境を提供できる中核病院として、4月のリニューアルオープンを迎えたい。

高齢者の外出支援は バス以外の活用も

神近 寛 議員



ふれあいバス実証事業の見直しに際し、事業の目的は、高齢者の外出支援による社会参加や健康づくり等であることを再確認したい。バス利用のほか、ショッピング、カラオケ、フィットネスクラブなど、利用者が選択できる仕組みがより望まれている。また、事業者に対し、一定の負担をお願いすることも考えてよいのではないか。

A ふれあいバス実証事業の見直しについては、高齢者の外出を支援する方向で、何らかの事業を構築する必要があると考えている。また、高齢者の外出を促進するためには、バスだけではなく、タクシーの利用等さまざまな

ことがあると思っており、事業者の一部負担等のアイデアも含め、検討したい。



産業・経済・労働

分収林^{注10}について

井上 潤一 議員



山林は治水や水源涵養のため、将来名木と言われるような樹木を育てる一方、自然木への再造林を行う必要がある。市有林立木売却収入が5年間で約2,800万円、年平均では約560万円となり、この収益金を貯めると、分収林の契約満期を迎える20年後には約1億1,000万円となる。これを基金として積み立てることはできないか。

A 今後、農林水産部で決定する森林整備方針において、財源の問題についても検討したい。

産業支援センターの 進捗状況について

村崎 浩史 議員



来年度に設置される産業支援センターのセンター長の公募の選考結果について尋ねる。また、同センターの開設時期については、4月を予定されていたが、いつ頃になりそうか。また、開設にあわせ、市内の財界関係者を対象としたセンター長のお披露目イベントを行うなど、同センターの広報をしっかりと行う必要があると思うがどうか。

A 産業支援センター長には146名の応募があり、11月20日に面接による2次審査を行った。また、同センターの開設時期は、センター長の採用時期の調整を進めており、富士市産業支援センター（f-biz）における研修等も含めると、3月末から4月にかけての開設を考えている。また、同センターの広報については、f-bizの小出センター長や岡崎ビジネスサポートセンター（OKaBiz）の秋元センター長の御協力のもと、事前セミナーを開催する方向で詰めている。

農林行政について

朝長 英美 議員



大村産米の種類と、老人施設における利用状況について尋ねる。また、大村産そばの市内飲食店全店での利用促進は可能か。また、首都圏における本市農産物のトップセールスの現状について尋ねる。また、空港でも確認されたイノシシ対策の推進は可能か。

A 大村産米は3種類で、50人規模以上の高齢者福祉施設での利用は、大村産のみが2施設、大村産を含む県内産が1施設、県外産が5施設、産地不明が2施設となっている。また、大村産のそばの提供については、飲食店に対しアプローチしたい。また、本市農産物のトップセールスの現状については、現在、市内の農業、水産業関係者から数件の相談を受けており、しっかりと連携をとりながら進めていきたい。また、イノシシ対策については、国の事業等を利用して懸命に取り組んでいるが、今後さらに取り組みたい。

